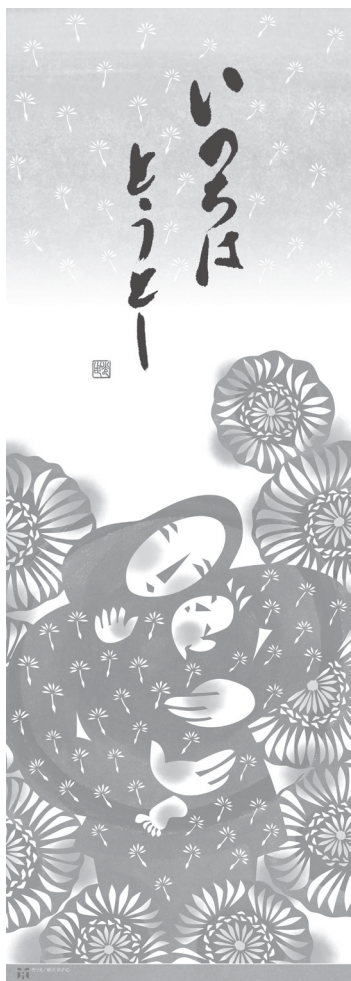


# 仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

いのちはとうとし



## 人はみ仏の子ども

新年おめでとうございます。皆さまにはお幸せに年の初めを寿がれたことと存じ申し上げます。さて、皆さまは何歳におなりでしょうか。今年もお正月を祝うことができましたことは、まことに有難いことであります。

それにしても、私たちは、どこのどなたからこの生命を頂いたのでしょうか。ご両親さまからです。そうです。その通りです。しかし、ご両親とて授かった生命が男の子か女の子か分らないのです。どういう生命が授かるか、それはご両親とて知る由もないのであります。そして、どんなに科学が進歩しても、人

間の知恵や力で生命を作ることには出来ないのであります。

実は、私たちの生命はみ仏さまからいただいたものであります。み仏さまからいただいた生命により、私という人間が、そしてあなたという人間がこの世に生まれ、こうしてお正月を祝っている。この重大な事実は、偶然というにはあまりにも尊い、有難いことではありませんか。自分で生まれようと思つて生まれたわけでもなく、また自分が生きていようと思つても生きておられるわけではなからであります。私たちは、仏のみめぐみに生まれ、みめぐみに育ち、みめぐみの中で生きています。すべての子どもはみなみ仏の子どもであります。

天にも地にもわれ一人

お釈迦さまはルンビニーの花園でお生まれになりました。

そして、お生まれになるとすぐさま七あしお歩きになり、右手は高く天を指し、左手は大地を指して、「天にも地にもわれ一人」とさけばれたとお経には伝えられています。しかし生まれたばかりの赤ちゃんがすぐ歩けるはずもなし、そんな言葉を知っているはずはありません。それこそはお釈迦さまが、人間として生まれた一人一人の尊さをさとされた、その教えを指し伝えたものであります。

みなさん、あの生まれたばかりの赤ちゃんの産声をおききになったでしょう。小さい赤ちゃんが力のかぎりさけぶあの声は、ほんとうに天地の間にわれ一人であるというように聞こえるではありませんか。そうです。お釈迦さまばかりが「天にも地にもわれ一人」なのではありません。あなたも、そして私も、誰でもが、天にも地にもわれ一人であって、二人とはおりません。そして二度とは生まれ来ないわれ一人であります。お釈迦さまはこの人間と生まれたわれ一人の生命の尊さをお教えになり、生命を尊び、二度とない人生を立派に生きねばならないことを説かれたのであります。

## いのちを大切に

み仏さまのみ教えを一言でいえば「いのちを大切にしなさい」であります。自分の命はもとより、生きとし生けるすべての命を愛し、尊び、大切に作る心こそみ仏さまのみ心にかなう心であり、これを慈悲心と申します。

この広い宇宙の中で地球だけがいのちある星です。太陽の光の中で、緑の草木は茂り、風さわやかに、花はほほえみ、蝶は舞い、鳥は歌い、けものは野原を走っています。そして人間は文明を築いています。これはみな地球のいのちのたまものであります。何という有難いこと、なんとという幸運ではないでしょ

うか。このいのちを大切にし、このいのちを愛し、このいのちの尊さをさとって、この地球を平和な極楽の浄土とすることが、人間の道であり、それが本当の文明であることを説いたのがみ仏さまのみ教えであります。

いのちを大切にしましょう。

いのちあるものは

みな生を願い死を怖れている

おのが身にひきくらべて

殺すべからず

殺さしむべからず